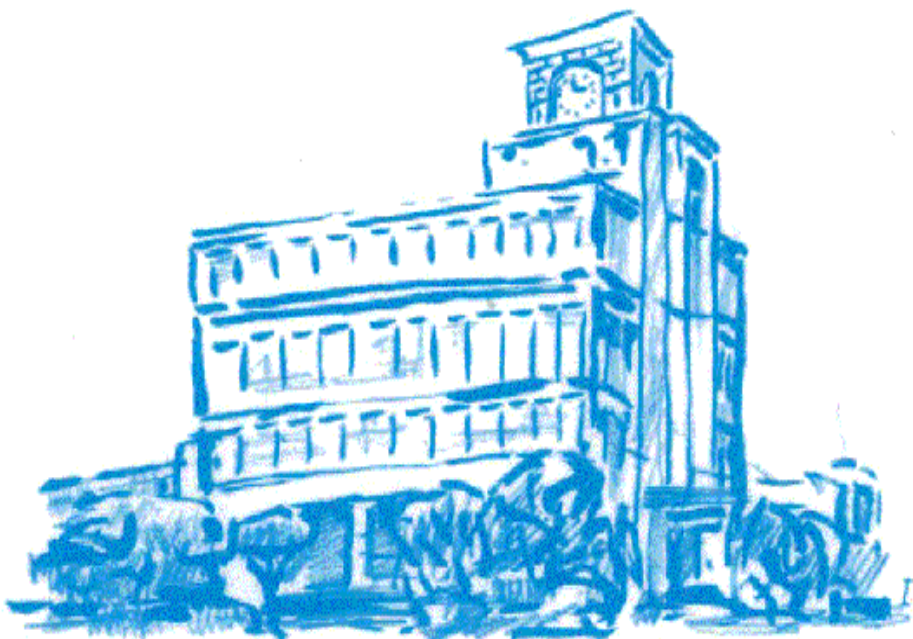


令和6年度(2024年度)

第65報 研究集録



伊丹市立総合教育センター

はじめに

少子化・高齢化、グローバル情勢の混迷、生成A I 等デジタル技術の発展等、社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまでになく高まってきています。子どもたちはそんな激しい変化が止まることのない時代をこれから生きていかなくてはなりません。

そのような時代の変化に対応することができる「生きる力」を子どもたちに育むため、令和6年12月25日の中央教育審議会諮問を受け、学習指導要領の改訂に向けた議論が始まりました。諮問の中では、「主体的に学びに向かうことができている子供の存在」が課題として挙げられ、「自らの人生を舵取りする力を身につけること」「持続可能な社会の創り手となること」「豊かな可能性を開花できること」が子どもたちにとって重要なことと示されました。このような資質を育成できる教育を実現するためには、教師自身が学び続けなければいけません。

学校では、子どもたちの資質・能力の向上に向け、日々授業研究に励まれています。今年度、市内11校で研究発表会が開催されました。それ以外の学校も、3年を1サイクルとして、子どもの姿を大切にしながら、授業改善に努められています。総合教育センターでは、「学校の伴走者」となり、学校と共に研究を深化させられるよう、アウトリーチによる支援を進めてまいりました。また、先生方の「学びたい」に応えられるよう、動画を活用した研修や、ラーニング・コミュニティの構築を進めてまいりました。

総合教育センターは、令和6年9月に30周年を迎えました。30周年を機に、子どもたちの Well-being のための授業改善にむけ、多様な子どもたちを前提とした、ちがいを豊かさにつなげる「カラフルな教育」を提案いたしました。この「カラフルな教育」が、市内各校で実践され、子ども一人ひとりの学びが豊かなものとなるよう、今後も学び続ける先生方を支援してまいります。公式Instagramも開設いたしましたので、そちらもぜひご活用ください。

さて、このたび総合教育センターにおける1年間の事業の取り組みを集約し、第65報「研究集録」として発刊する運びとなりました。皆さまにおかれましては、本集録をご一読いただき、自校の研究に役立てていただければと思います。結びにあたりまして、本集録の作成に多大なご協力をいただきました皆さまに心から感謝申し上げます。

令和7年（2025年）3月
伊丹市立総合教育センター
所 長 山下 拓志郎

も く じ

はじめに

伊丹市教育委員会事務局学校教育部
伊丹市立総合教育センター所長

山下 拓志郎

令和6年度(2024年度)伊丹市立総合教育センター事業報告

事業体系と総事業活動状況

I 研修

1 職務研修・一般研修

2 授業力向上(カリキュラム)支援センター事業

II 教育の情報化

III 教育相談

IV 不登校児童生徒の支援

伊丹マイスター活動報告

研修レポート

グループ研究

- 小学校外国語活動グループ研究会
- 伊丹市養護教諭部研究会グループ研究会
- 中学校数学科グループ研究会
- 音楽グループ研究会
- 伊丹市小学校体育研究会グループ研究
- 中学校英語科グループ研究会
- 学校図書館教育グループ研究会
- 中学校国語科授業検討グループ研究会
- 中学校美術科授業研究グループ研究会

令和6年度(2024年度)伊丹市立総合教育センター事業体系

基本施策体系		主要施策		事 業 名		重点対象	
センター管理							
Ⅰ	研 修	ライフステージ研修		① トップリーダー研修		校長及び教頭等	
				充 ② トップリーダーグループ研修(フォローアップ含む)		教頭等	
				充 ③ 初任者研修		初任者	
				充 ④ 1年次ミドルリーダー養成研修		ミドルリーダー	
				⑤ 若手教員のためのスキルアップ講座		経験5年未満教員	
		専 門 研 修		充 ① 伊丹マイスター事業		各マイスター教員	
				② 授業力向上講座(主体的・対話的で深い学びのある授業づくり)			
				③ 特別支援教育研修			
				④ 道徳教育実践講座			
				⑤ 英語教育実践講座			
				⑥ 人権教育研修			
				⑦ 防災教育研修			
				⑧ 理科実験講座			
		教育課題対応研修		① 生徒指導対応力向上研修(いじめ・不登校等)			
				② ピアサポート(冒険教育)に関する研修			
		啓 発 研 修		① 時計台発行(伊丹の教育啓発誌上講座)			
				② 教育フォーラム			
				③ トワイライト研修			
		授業力向上 (カリキュラム) 支援センター		コンサルティング機能	充 ① 教師力向上のための個別支援・相談		
					充 ② アウトリーチ型支援(コンサルタント派遣)		
			ワーキングスペース	① グループ研究			
			コンテンツ提供	② 図書及び映像資料の貸出			
		校内研究の活性化		充 ① 学校力アップ(アウトリーチ型校内研究支援)			
				② 研究担当者会		校内研究推進担当教員	
Ⅱ	調 査 研 究	充 ① 研究・研修活動の充実に向けた学校支援のあり方					
		充 ② 全国学力・学習状況調査分析					
		充 ③ 授業におけるタブレット活用研究					
		充 ④ 教育支援センターにおける効果的な支援					
Ⅲ	教育の情報化	情報活用能力の育成		充 ① 情報教育研修			
				充 ② アウトリーチ型ICT活用研修			
				③ 教育の情報化実態調査			
				充 ④ 情報モラル・情報セキュリティ研修			
		校務の情報化		① ICT活用推進教員(リーダー)担当者会			
② 学校(園)におけるICT環境の整備							
Ⅳ	教育相談	面 接 相 談		① こころの相談			
				② 特別支援教育相談(発達相談)			
				③ ことばの支援教室			
				④ 医療心理相談			
				⑤ 医療発達相談			
		電 話 相 談 研 修		① 電話による教育相談			
				① スーパービジョン(ケースカンファレンス)			
Ⅴ	不登校児童生徒の支援	教育支援センター		充 ① やまびこ			
				② 指導員研修(ケースカンファレンス)			
		訪問支援・啓発		① メンタルフレンド派遣			
				② 教育支援センター「やまびこ」運営委員会			
				③ 子どもの思春期を考える親のつどい			

令和6年度(2024年度)伊丹市立総合教育センター総事業活動状況統計

	回数	人数
研修受講者総合計	221	7723

※研修受講者+情報化関連研修受講者

研 修	主要施策	事業名	回数	人数	R5未合計
	ライフステージ研修	① トップリーダー研修	1	22	51
		② トップリーダーグループ研修	5	82	56
		③ トップリーダーグループ研修フォローアップ研修	3	75	
		④ 初任者研修	7	406	348
		⑤ 1年次ミドルリーダー養成研修	5	153	178
		⑥ 若手教員のためのスキルアップ講座	2	104	135
		小 計	23	842	768
		① 授業力向上講座	5	273	220
		② 特別支援教育研修	2	216	241
		③ 道徳教育実践講座	1	32	80
		④ 英語教育実践講座	2	63	73
		⑤ 人権教育研修	1	47	58
		⑥ 防災教育研修	1	56	
		⑦ 理科実践講座	1	7	4
		小 計	13	694	676
	教育課題対応研修	① 生徒指導対応力向上研修	3	204	126
		小 計	3	204	126
	啓 発 研 修	① 教育フォーラム	1	76	36
		② トワイライト研修	3	76	74
		小 計	4	152	110
	授業力向上(カリキュラム)支援センター	① グループ研究(全 グループ)	59	766	693
		② アウトリーチ型支援(コンサルタント派遣)		142	161
		③ 個人利用		142	189
		④ 複数利用		1214	1036
		小 計	59	2264	2079
	合 計		102	4156	3759

教育 の 情 報 化	情報活用能力の育成	① 情報教育研修	1	48	63
		② アウトリーチ型ICT活用研修	115	560	647
		③ 情報モラル・情報セキュリティ研修	3	2959	820
		小 計	119	3567	1530
	校務の情報化	① ICT活用推進教員(リーダー)担当者会	4	119	112
合 計			4	119	112

教育 相 談			相談件数	のべ回数	R5未合計
	面接相談	① 教育相談(こころの相談)	2884	3524	3486
		② 特別支援教育相談(発達相談)	277	284	147
		③ ことばの支援教室	197	197	183
		④ 医療心理相談	32	113	118
		⑤ 医療発達相談	43	165	192
	電話相談	① 電話による教育相談	81	81	53
	情報交換	① 学校・関係機関との情報交換	11	24	55
	研 修	① スーパービジョン	6	48	40
	合 計		3531	4436	4274

※相談件数とは、相談した子どもの人数 ※のべ回数とは、相談員が相談を行った回数

生 不 徒 登 の 校 支 児 援 童	教育支援センター		学校数	児童生徒数	R5未合計
		① やまびこ	18	46	39
	訪問支援・啓発		回数	人数	R5未合計
		① メンタルフレンド派遣	27	4	10
		② 子どもの思春期を考える親のつどい	1	21	6
		小 計	28	25	16

企画展示	R6	R5未合計
企画展示(件数)	10	12
展示日数	110	138

I 研 修

1 職務研修・一般研修（1,208,000 円）

1 事業目的

教職員を対象とした各種研修を実施することにより、教職員の資質・能力の向上を図る。

2 実施方針及び実施内容

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習指導の改善・充実

国の動向や伊丹市の現状、教職員のニーズを踏まえた講座を実施することで、教職員の授業改善・充実を図る

(2) 教職員のライフステージに応じた研修の充実

- ① 初任者研修（年間3回）、初任者訪問指導（年間2回）の実施と必要に応じた継続支援
- ② ミドルリーダー養成研修（2年間プログラム）
- ③ トップリーダー研修（年間2回）
- ④ トップリーダーグループ研修（3年間プログラム）

(3) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」に重点を置いた研修の充実

- ① 子どもたちの多様化と社会の変化に対応するため、教師に求められる資質・能力に加え、新たな領域の専門性を身につけるための研修の充実
- ② 「新たな教師の学びの姿」の実現を目指す研修の実施

(4) 多様な研修形態による教職員の学びの場の充実

- ① 教職員のニーズや働き方、研修目的に合わせた研修形態の充実
- ② 校種を超えた学びのつながりの充実
- ③ 子どもの発達と学びの連続性を重視した研修等の実施

(5) 学校へのアウトリーチ型支援の強化

- ① 学校と連携を図り、指導主事やコンサルタント等によるアウトリーチ型支援を強化
- ② 校内研究の活性化、教職員の授業力や学級経営力の向上を図る

(6) 伊丹マイスター事業の改善・充実

- ① 教育に関する専門性を有し、子どもの主体性を育む優れた小・中学校教員を伊丹マイスターとして任命し、校内研究や初任者訪問指導等における指導および助言等を実施
- ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する

3 成果と課題・改善策

(1) 成果

- ① 周知方法を見直し、夏季研修等での受講奨励や研修後のリフレクションにつながるリーフレットを作成することで、教職員の意識変容や学校関係者以外にも教職員の取組を発信できた
- ② 教職員向けグループウェアを活用した市内研究発表会、市外研修情報等の情報発信の充実
- ③ 伊丹マイスターと連携した初任者研修の実施

(2) 課題・改善策

- ① 情報発信が多くなり見にくくなった部分があるため、教職員がよりスムーズに必要な情報を受け取れる周知の検討を行う
- ② 夏季研修実施時期が校内研修等と重なり参加が伸び悩んでいるため、開催期間・実施時間等のさらなる検討を行う
- ③ 教員同士が主体的・対話的に学び合うシステム（ラーニング・コミュニティ）の構築

【参考資料】 令和6年度主な研修講座

	研修会名	日時	曜日		R6年度 講師	研修・講座内容	参加人数
ライフステージ研修	トップリーダー研修①	7月30日	火	オンライン	国士舘大学 教授 喜名 朝博 氏	これからの学校づくりに必要な校長のマネジメント	20
	トップリーダーグループ研修①	6月18日	火	総合教育センター	元大阪教育大学教職大学院 教授 深野 康久 氏	学校活性化とビジョンづくり	18
	トップリーダーグループ研修②	8月2日	金	総合教育センター	元大阪教育大学教職大学院 教授 深野 康久 氏	新任教員の学級をめぐる学校の対応	14
	トップリーダーグループ研修③	8月8日	木	総合教育センター	元大阪教育大学教職大学院 教授 深野 康久 氏	自校の課題と改善方策	16
	トップリーダーグループ研修④	10月22日	火	総合教育センター	元大阪教育大学教職大学院 教授 深野 康久 氏	「学校の危機管理」	17
	トップリーダーグループ研修⑤	1月28日	火	総合教育センター	元大阪教育大学教職大学院教授 深野 康久 氏	「学校改革の方法論を考える」	17
	初任者研修(市)①	4月16日	火	総合教育センター	教育長・職員課長・総セン指導主事(2)・幼児教育推進課指導主事	教職のライフコースと学級づくり、服務規律について、授業づくりについて、情報教育について	96
	初任者研修(市)②※若手教員のためのスキルアップ講座含む	8月6日	火	総合教育センター	日本赤十字社兵庫県支部 中島 健治 氏	防災教育実践講座に記載	
		8月6日	火	総合教育センター	伊丹ICTマスター(小)	マスター研修に記載	
		8月6日	火	総合教育センター	伊丹授業マスター・総合教育センター指導主事	マスター研修に記載	
	初任者研修(市)③	1月23日	木	総合教育センター	伊丹ICTマスター(中)・総合教育センター指導主事	マスター研修に記載	
	新規採用教員等人権教育研修会①	7月29日	月	人権教育センター	伊丹市人権教育指導員 園田 千津美 氏 田中 翠子 氏 川上 八郎 氏	学校教育に願うこと、若い先生に期待すること	80
	新規採用教員等人権教育研修会②	10月31日	木	伊丹市役所	ゆうき 氏、元加古川市立小学校校長 松本一成 氏	トランスジェンダーと父の親子対談 「葛藤を乗り越えて私たちが笑顔でいられる理由」	89
	ミドルリーダー養成研修①	6月27日	木	総合教育センター	太成学院大学 教授 伊藤 博 氏	演習「人間関係トレーニング」	30
	ミドルリーダー養成研修②	7月25日	木	総合教育センター	太成学院大学 教授 伊藤 博 氏	「学校園での性格検査の活用法:エゴグラム・MBTIを活用して」	32
	ミドルリーダー養成研修③	7月31日	水	総合教育センター	太成学院大学 教授 伊藤 博 氏	「傾聴スキル」	32
	ミドルリーダー養成研修④	11月14日	木	総合教育センター	指導主事	服務規律	27
	ミドルリーダー養成研修⑤	2月18日	火	総合教育センター	太成学院大学 教授 伊藤 博 氏	「次年度の研究に向けて」	32
専門研修	授業力向上講座①(授業づくり)	7月22日(月)～8月30日(金)		オンデマンド	大妻女子大学 教授 澤井 陽介 氏	資質・能力を育む授業づくりと学習評価	66
	授業力向上講座②(ICT)	7月24日	水	総合教育センター	大阪教育大学 教授 寺嶋 浩介 氏	講話「授業改善につなげるICT活用」	27
	授業力向上講座③(算数・数学)	7月26日	金	総合教育センター	山梨学院大学 教授 清水 宏幸 氏	研修「次期学習指導要領を見据えた算数・数学の授業づくりー学的活動の一層の充実に向けてー」	43
	授業力向上講座④(ICT)	8月2日	金	総合教育センター	中京大学 教養教育研究院 教授 泰山 裕 氏	研修「個別最適な学びと一人一台端末の活用」	49
	授業力向上講座⑤(国語)	8月7日	水	総合教育センター	関西学院大学初等部 教諭 野村 真一 氏	研修「国語科の本質を捉えた授業デザイン」	88
	特別支援教育研修①	8月9日	金	オンライン	福岡教育大学 准教授 河村 暁 氏	ワーキングメモリに弱さのある子どもへの算数の指導と支援	102
	特別支援教育研修②	8月9日	金	総合教育センター	神戸大学 名誉教授 鳥居 深雪 氏	思春期の児童生徒における自己理解を深める指導・支援～セルフアドボカシーの視点から～	114
	道徳教育実践講座	7月26日	金	総合教育センター	日本道徳教育学会 近畿支部 副支部長 川崎 雅也 氏	道徳の授業の中で、教材をどのように深めるのか	32
	防災教育実践講座	8月6日	火	総合教育センター	日本赤十字社兵庫県支部 赤十字防災教育事業主任指導者 中島 健治 氏	研修「防災・減災教育について ～児童生徒につたえること、教師としての役割～」	56
	英語教育実践講座①	7月22日	月	総合教育センター	兵庫教育大学大学 大学院学校教育研究科 准教授 近藤 暁子 氏	「一人一人の学びに寄り添う英語授業～言語習得の個人差要因とICTの活用～」	36
	英語教育実践講座②	8月5日	月	総合教育センター	平安女学院大学 教授 中西 浩一 氏	一人一人の学びに寄り添う英語授業～指導と評価に視点を当てて	30
	人権教育研修会	7月23日	火	総合教育センター	佛光大学 副学長 原 清治 氏	研修「ネットいじめと学校」	47
	伊丹授業マスター(小・中学校)	8月6日	火	総合教育センター	伊丹市立瀧池小学校 島村 雅志 教諭・伊丹市立根尾小学校 高橋 良子 教諭・伊丹市立辰野小学校 平井 達也 教諭・伊丹市立南中学校 池田 拓朗 教諭(外国語)・伊丹市立北中学校 柳原 浩 教諭(国語)	授業づくり	53
	伊丹ICTマスター(小学校)	8月6日	火	総合教育センター	伊丹市立瀧池小学校 的場 貴史 教諭・伊丹市立桜台小学校 有附 祥吾 教諭・伊丹市立笹原小学校 中山 貴嗣 教諭	ICTの効果的な活用	51
	伊丹ICTマスター(中学校)	1月23日	木	総合教育センター	伊丹市立西中学校 有村 理 教諭・伊丹市立天王寺川中学校 宮本 健太郎 教諭	ICTの活用・情報モラルについて	27
教育課題研修	生徒指導対応力向上研修①	7月22日(月)～8月30日(金)		オンデマンド	上越教育大学 教授 赤坂 真二 氏	指導力のある教師の学習環境づくり	81
	生徒指導対応力向上研修②	7月24日	水	総合教育センター	立命館大学名誉教授 近江兄弟社高等学校長 春日井 敏之 氏	研修「子どもの権利といじめ・不登校への支援～子どもとともに生きるということ～」	44
	生徒指導対応力向上研修③	8月8日	木	総合教育センター	兵庫教育大学大学院教授 秋光 恵子 氏	研修「不登校未然防止のためのすべての子どもに居場所のある学級づくり」	79
啓発研修	センター教育フォーラム	8月1日	木	総合教育センター	大阪大谷大学 教授 今宮 信吾 氏	「子どもに学びを委ねる ～その時、教師には何が求められるのか～」	76
	トワイライト研修①	12月20日	金	総合教育センター	武庫川女子大学 教授 藤本 勇二 氏	「個別最適な学びってなんだろう？～藤本勇二先生と考える個別最適な授業づくりの進め方～」	26
	トワイライト研修②	1月10日	金	オンラインサテライト	鳥取大学 准教授 石本 雄真 氏	「子どもたちに社会で必要な力はどうやってつけないだろうか？～石本雄真先生と考えるSEL(社会性と情動の学習)を生かした学校教育～」	25
	トワイライト研修③	2月21日	金	オンライン	京都教育大学 講師 榎原 久直 氏	多様な子どもたちとどうかかわっていけばいいだろうか～榎原久直先生と考える心理発達特性が見られる児童・生徒への関わり方～	18
報教	情報教育研修会	7月30日	火	総合教育センター	園田学園女子大学 教授 堀田 博史 氏	研修「教育データの利活用について」	48

2 授業力向上(カリキュラム)支援センター事業 (4,287,000 円)

1 事業目的

「コンサルティング機能」「ワーキングスペースの提供」「コンテンツの提供」の3つの機能により、教職員の自主的、主体的な研究活動の支援や、授業ですぐ役立つような個別のニーズに応じたサポートを行う。

2 実施方針及び実施内容

(1) コンサルティング機能を活用した教職員への支援及び相談の充実

常駐している経験豊富なコンサルタントが授業力向上（カリキュラム）支援センターにて、個々の教職員のニーズに応じた支援及び相談を行う。

(2) 「アウトリーチ型支援」の充実

各学校からの要請に応じた指導主事やコンサルタントを各学校へ派遣し、教職員（臨時講師等も含む）の授業づくりや学級づくり等についての支援及び相談を行う。

(3) コンテンツの充実

教員の自主研修を支援するための、教育図書や DVD などのデジタルコンテンツの充実を図る。

図書については、近年の教育課題に則した 書籍や教科指導等に関する書籍を中心に整備を行う。

コンサルタントの在籍状況が確認できる Garoon 掲示板の活用や、図書を利用する教職員の利便性を向上させる、カリキュラムセンター蔵書検索機能を随時更新する。

3 成果と課題・改善策

(1) 成果

- ① ワークステーションのリニューアルに伴い、貸室の利用者数の増加につながった。
- ② コンサルタントが自ら学校に出向き、学校の若手教員の授業の状況を管理職に確認し、若手教員や臨時講師の授業を中心に積極的に授業支援を行うことができた。
- ③ 授業力向上（カリキュラム）支援センターの運用方針を変更し、QR コードを活用した電子受付名簿を各貸室に配置することで、利用者の利便性を向上させた。
- ④ ZOOM を使用してのオンライン相談を開始し、訪問せずにコンサルタントへ相談ができる利用方法を追加し、利便性の向上を図った。

(2) 課題・改善策

- ① 電子受付名簿に変更したが、名簿登録が浸透しておらず登録がなされないままの利用があり、コンサルタントの呼びかけや掲示板での再告知等で、周知徹底を図り、確実な利用者の把握に努める。
- ② 貸室の利用や図書の利用は増加しているが、利用者に偏りがある。新書が入荷した時に掲示板で紹介するとともに、おすすめの図書と一緒に各学校へ出張貸し出しを行い、図書に触れる機会を増やし、読んでもらう機会を設ける。

Ⅱ 教育の情報化（244,385,000 円）

1 事業目的

「情報活用能力の育成」と「校務の情報化」を推進し、教育の質の向上を図る。

2 実施方針及び実施内容

(1) 情報活用能力の育成

- ① 集合型及びアウトリーチ型研修の実施等を通じた、授業における ICT 活用の推進
- ② 教職員への情報モラル教育に係る情報の提供及び研修を通じた、情報モラル教育の推進
- ③ 授業における ICT 活用の推進に資する、情報通信技術支援員（ICT 支援員）の運用
- ④ 国の方針及び「伊丹市教育 DX 推進指針」に基づく、学校教育の情報化の推進

(2) 校務の情報化

- ① 教職員に対する「伊丹市教育情報セキュリティポリシー」の周知・徹底
- ② セキュリティポリシーに基づいた、各種システムの運用及び情報セキュリティ対策
- ③ 各種システムの機能改善や設定変更による、校務の情報化の推進
- ④ タブレット端末をはじめとした ICT 機器等の、運用方法の改善
- ⑤ 「伊丹市教育 DX 推進指針」に基づく、よりよい ICT 環境の構築に向けた整備計画の策定

3 成果と課題・改善策

(1) 成果

- ① アウトリーチ型研修・支援、各校への ICT 支援員の派遣、グループウェアによる積極的な情報提供等により、授業における ICT 活用及び情報モラル教育推進に資することができた。
- ② 児童生徒・指導者用タブレット端末について、OS やフィルタリングソフト、アプリ等の定期的な更新等を通して、安全かつ効果的な活用に至ることができた。
- ③ 学習 e ポータル（まなびポケット）を導入し、児童生徒の学習環境の充実に資することができた。
- ④ デジタル保護者連絡やグループウェア、校務支援システム、デジタル教材、学習 e ポータルの運用により、ICT による校務の効率化を支援することができた。

(2) 課題・改善策

- ① 教職員が ICT 機器やデータの適切な管理や扱い方を遵守できるよう、「伊丹市教育情報セキュリティポリシー」の改訂や周知徹底等、情報セキュリティ対策の徹底を図る必要がある。
- ② 教員の ICT 活用指導力向上及び ICT を活用した授業改善に向けて、全体研修及びアウトリーチ研修、情報通信技術支援員（ICT 支援員）による授業支援、効果的な活用事例の周知等、教職員への働きかけ方について検討していく必要がある。
- ③ 児童生徒の情報活用能力の育成のため、情報モラル・情報セキュリティに係る学習を、各教科において推進していく必要がある。
- ④ 児童生徒・指導者用タブレット端末について、学校における端末管理を支援し、円滑に端末が運用できるように支援体制を検討する必要がある。

Ⅲ 教育相談（29,327,000 円）

1 事業目的

幼児児童生徒の心身の健全な発達を支援するため、市内在住及び市内の幼稚園、こども園、小・中・特別支援・高等学校に在籍する幼児児童生徒及びその保護者、教職員を対象に専門の相談員による教育相談を行う。

2 実施方針及び実施内容

(1) 相談員の資質向上

- ① スーパービジョン研修をとおして相談員の資質の向上を図る。

(2) 相談内容に合わせた対応

- ① 相談ケースの受理についてケースカンファレンスで様々な角度から検討することで、より適切な相談の方向性を決定する。
- ② 相談期間が長期に渡っているケースは、次年度の継続についてケースカンファレンスの中で検討を踏まえ、保護者と話し合い、今後の方向性を共通理解する。
- ③ 相談体制の充実等により、スムーズに相談を開始し、寄り添った相談が出来るようにする。
- ④ クライアントのニーズに応じた相談方法（オンライン相談）の研究を進める。

(3) 相談体制の構築と関係機関との連携

- ① 学校園や教育支援センター「やまびこ」、学校教育課、こども福祉課等関係機関、「不登校対策チーム『つなぐ』」との情報交換を行うことで、ケースの実態把握に努め効果的な支援体制の構築を図る。
- ② 子ども発達支援センター「あすばる」と重複する就学前施設園児のケースについて、適宜共有を行い、適切な支援体制の構築を図る。

3 成果と課題・改善策

(1) 成果

- ① ケースカンファレンスやスーパービジョンのケース検討を通して、相談員同士が互いの考えを出し合いカウンセリングの方向性について考えていくことで、専門性を高めることができた。
- ② 新年度に向け、ケースカンファレンスの中で相談ケースを見直す機会を設定し、各相談員が自身のケースを振り返り、継続の必要性について考える場を設定した。これにより各相談員がこれまでの経緯を振り返り、これからの方向性を考える機会となった。
- ③ こども福祉課、学校教育課、不登校対策チーム『つなぐ』等他課との連携を強化し、子どもへのより適切な支援や望ましい環境作りについて情報を共有し取り組むことができた。
- ④ 継続相談のクライアントを対象に、臨時的な対応としてオンライン相談を実施した。
- ⑤ 継続相談の相談員を増員したことにより、待機数が減少した。

(2) 課題・改善策

- ① 不登校に関わる相談が全体の約半分を占めている。中には全く外に出ることが出来ない児童・生徒もいるので、学校園や他課との連携を行い、適切な相談の実施や効果的な支援体制の構築に努めるとともに、積極的な情報交換を行う必要がある。
- ② 相談内容の多様化に対応するため、引き続きスーパービジョンを通して相談員の資質向上を図っていく。また、教育相談における課題把握、研修のあり方を工夫していく必要がある。

(8) スーパービジョン

	月 日	講 師	所 属 等	内 容	参加人数
1	7月30日	坂本 真佐哉	神戸松蔭女子学院大学 教授	事例検討	8
2	8月27日	神崎 真実	追手門学院大学 講師	講演形式	7
3	9月10日	榊原 久直	京都教育大学 教育創生リージョナルセンター機構 総合教育臨床センター 学びサポート室 講師	事例検討	8
4	10月29日	伊藤 良子	京都大学 名誉教授	事例検討	8
5	11月19日	岩宮 恵子 (オンライン)	島根大学 教授	事例検討	8
6	1月14日	川畑 直人	京都文教大学 教授	講演形式	9

IV 不登校児童生徒の支援（13,750,000 円）

1 事業目的

不登校児童生徒に対して、小集団による学習や体験活動により、社会的自立を支援する。

2 実施方針及び実施内容

(1) 教育支援センター「やまびこ」の運営

- ① 入所前に学校と事前に十分に情報交換をするとともに、関係機関との連携を図る。
- ② 県立但馬やまびこの郷など不登校施設等関係機関との協力体制を確立し連携する。
- ③ 指導員による学校訪問を年2回実施し、学校と足並みをそろえた支援体制を構築する。
- ④ 学校園や関係機関との情報交換により実態把握に努め効果的な支援体制の構築を図る。
- ⑤ カリキュラムを見直し、多様な子どもたちに対する個に応じた支援の体制を整える。
- ⑥ やまびこに登録していても通所できていない児童生徒に対してオンラインでの支援を行う。

(2) 教育支援センター「やまびこ」運営委員会の開催

- ① 市内の不登校児童生徒の実態を把握し、効果的な支援方法を探り、発信を行う。（年間2回）

(3) メンタルフレンドによる家庭訪問

- ① メンタルフレンド派遣希望者のニーズに対応できる体制を整える。

(4) 「子どもの思春期を考える親のつどい」の開催

- ① 不登校で悩む保護者の情報交換の場を設定する。
- ② 教育相談部での案内や学校を通じて周知するなど、保護者の参加を積極的に呼びかける。

3 成果と課題・改善策

(1) 成果

- ① 学校訪問等により、学校との情報共有や共通理解を深めることで、不登校児童生徒への支援の充実を図ることができた。
- ② 教育支援センター「やまびこ」入所、メンタルフレンド派遣にあたって、学校、関係機関等と情報共有を図ることで、個別の支援に役立てることができた。
- ③ 学習支援や体験活動を充実させることで、主体的に取り組んだり、他者とのコミュニケーションを図ったりしながら学ぶ意欲の向上を図ることができた。
- ④ メンタルフレンドとの交流を重ねることで、積極的にコミュニケーションをとろうとする様子をみることができるようになった。
- ⑤ 個別懇談会、保護者会の実施により保護者の悩みや思いを共有し、子どもとの関わりに役立てる知識や考え方を得る機会にすることができた。
- ⑥ やまびこオンラインの実施により、通所が難しかった生徒が参加することができた。また、オンラインへの参加をきっかけに通所できるようになった。

(2) 課題・改善策

- ① 学校・家庭・教育支援センターの相互連携を図り、支援の充実のためカリキュラムの見直し、個別の支援方法の研究等を推進していく必要がある。
- ② 不登校児童生徒の実態を分析し、オンライン支援を含めた個に応じた支援方法を構築していく必要がある。
- ③ 特別支援学級在籍児童生徒の入所の可否について学校と十分に協議し、入所するにはその支援方法や学校との連携について検討していく必要がある。
- ④ 教育支援センターの目的や運営方法について、教職員への周知を図る必要がある。

【参考資料】やまびこ在籍者数

令和6年度末

		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計	通所人数
在籍	男	0	0	2	1	2	2	1	0	6	14	46
	女	0	0	1	1	0	1	4	6	12	25	
体験入所	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	2	1	3	1	7	
計		0	0	3	2	2	5	6	9	19	46	

中学校	学校	正式入所	体験入所	中3	中2	中1
	東	3	1	2	1	1
	西	5	1	0	3	3
	南	5	0	3	2	0
	北	6	0	5	1	0
	天王寺川	2	1	2	1	0
	松崎	4	0	4	0	0
	荒牧	2	1	2	0	1
	笹原	1	0	1	0	0
	甲南	1	0	0	0	1
	百合	0	1	0	1	0
	計	29	5	19	9	6

小学校	学校	正式入所	体験入所	小6	小5	小4	小3
	伊丹	3	0	2	1	0	0
	稲野	2	0	1	0	1	0
	笹原	0	1	1	0	0	0
	瑞穂	1	1	1	0	1	0
	花里	1	0	0	0	0	1
	摂陽	1	0	0	0	0	1
	鈴原	1	0	0	1	0	0
	鴻池	1	0	0	0	0	1
	計	10	2	5	2	2	3

【参考資料】メンタルフレンド派遣児童生徒数

令和6年度末

学年別 在籍人数	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計	人数
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4人
女	0	1	0	1	0	1	1	0	0	4	
計	0	1	0	1	0	1	1	0	0	4	

1 伊丹マイスター活動報告

伊丹マイスター

教科等	指導員名	所属校
小学校授業マイスター	島谷 隆志 教諭	瑞穂小学校
	平井 達也 教諭	荻野小学校
	高峰 良子 教諭	摂陽小学校
小学校 ICT 活用マイスター	的場 貴史 教諭	鴻池小学校
	中山 貴嗣 教諭	笹原小学校
	有附 祥吾 教諭	桜台小学校
中学校授業マイスター	池田 拓朗 教諭	南中学校
	柳原 百 教諭	北中学校
	谷本 浩一 教諭	東中学校
中学校 ICT 活用マイスター	有村 理 教諭	西中学校
	宮木 慎太郎 教諭	天王寺川中学校

主な活動内容

1 初任者訪問指導における指導助言

初任者の訪問指導として授業を参観するとともに、事後研究会で指導助言を行った。

第1回初任者訪問指導

実施月日	マイスター	訪問校	指導学年（教科）
6月13日(木)	柳原 百 教諭	松崎中学校	第1学年（国語）
6月14日(金)	高峰 良子 教諭	花里小学校	第1学年（算数）
6月18日(火)	高峰 良子 教諭	摂陽小学校	第1学年（国語）
6月20日(木)	平井 達也 教諭	天神川小学校	第3学年（算数）
6月20日(木)	島谷 隆志 教諭	昆陽里小学校	第3学年（算数）
6月24日(月)	谷本 浩一 教諭	天王寺川中学校	第1学年（数学）
7月5日(金)	谷本 浩一 教諭	西中学校	第2学年（数学）

第2回初任者訪問指導

実施月日	マイスター	訪問校	指導学年（教科）
11月7日(木)	柳原 百 教諭	松崎中学校	第1学年（国語）
11月18日(月)	島谷 隆志 教諭	瑞穂小学校	第4学年（道徳）
11月18日(月)	池田 拓朗 教諭	北中学校	第1学年（英語）
11月21日(木)	谷本 浩一 教諭	西中学校	第2学年（数学）
11月28日(木)	谷本 浩一 教諭	天王寺川中学校	第1学年（数学）

2 若手教員のためのスキルアップ講座（第2回初任者研修（市関係））

(1) 「ICTの効果的な活用について」

実施月日	マイスター	場所
8月6日(火) (13:15～14:45)	小学校 ICT 活用マイスター 鴻池小学校 的場 貴史 教諭 桜台小学校 有附 祥吾 教諭 笹原小学校 中山 貴嗣 教諭	総合教育センター 2階 研修室

① 実施内容

ア ICT 活用における基本事項・ルールについて

1 伊丹マイスター活動報告

イ 授業のどの場面で ICT を活用すればよいか

ウ 効果的なアプリ活用法について

② 受講者の声

ア 授業の際、ICT を活用しているが効果的に使えているかわからなかった。目的が曖昧になってしまったり、ICT を使うことが目的になってしまったりしていたように思う。なぜ ICT を使うのか考えていきたい。

イ ICT はあくまでも道具であること。手段であって目的になってはいけないということ。教育的効果を測りながら使用していくべきと思った。

(2) 「授業づくりについて」

実施月日	マイスター	場所
8月6日(火)	小学校授業マイスター 瑞穂小学校 島谷 隆志 教諭 摂陽小学校 高峰 良子 教諭 荻野小学校 平井 達也 教諭 中学校授業マイスター (中学校) 南中学校 池田 拓朗 教諭 北中学校 柳原 百 教諭	総合教育センター 2階 研修室

① 実施内容

ア 初任者の指導力向上に向けた支援について

イ 初任者の現状の課題と支援の実際

② 受講者の声

ア 授業力を向上させていくためには、自分の授業を振り返る、良かった点や改善点を見出し、そこからさらにレベルアップしていくために考える時間を取ることが重要であると感じた。

イ 研修でさまざまな先生や指導主事と話をすることで気づくことや、学びになることが多くあった。自分も同じ悩みを抱えていたり、解決方法を見つけてくれたり、いろいろなヒントが隠されていてとても充実した時間であった。

3 第3回初任者研修（市関係）

(1) 「情報モラルと ICT の活用について」

実施月日	マイスター	場所
1月23日(木) (15:00~16:30)	中学校 ICT 活用マイスター 西中学校 有村 理 教諭 天王寺川中学校 宮木 慎太郎 教諭	総合教育センター 2階 研修室

① 実施内容

ア ICT 活用・情報モラルについて

② 受講者の声

ア タブレットを使う場面設定はできているが、どのような目的をもってつかわせるのかについては、考えられていない。生徒に伝えていけないといけなことがたくさんあるけれど、自分の知識が全然足りていないと思ったので、情報について学ばなければいけない。

小学校外国語グループ研究会

グループ員：伊藤 栄	(伊丹小学校)	天野 慎之介	(笹原小学校)
高木 まゆみ	(有岡小学校)	上道 淳子	(鈴原小学校)
和布浦 久子	(池尻小学校)	高田 悦子	(摂陽小学校)
津村 恵	(伊丹小学校)	後藤 友美	(天神川学校)
檜崎 美穂	(稲野小学校)	中村 香澄	(花里小学校)
小松 裕子	(荻野小学校)	神原 友美	(瑞穂小学校)
青野 有美	(神津小学校)	藏野 有紀	(緑丘小学校)
高橋 華代	(昆陽里小学校)	高木 順子	(南小学校)
松井 理恵子	(桜台小学校)	神田 順子	(南小学校)

担当指導主事：近田 拓郎

キーワード：主体的な学び、教材研究、授業案の提案、思考・判断・表現の評価

1 研究テーマ

「主体的な学習を促すための研究」

2 研究内容

(1) 教材研究

- ① 今年度からの5年生教科書の変更にあたり、教科書会社に講師を依頼し、デジタル教科書の使い方や授業内での活用方法などについて理解を深めた。
- ② 2～3人に分かれ、各単元の教材研究を実施した。また、授業の概要について検討し、全体で協議をした。

(2) 実践報告

- ① 研究員が、授業内容(スピーチや言語活動の方法、評価の仕方等)についての様々な実践報告を行った。
また発展的なアイデアを付け加え、さらに内容を深めることもできた。
- ② 研究員が作成した「思考・判断・表現」を評価するテストをもとに、良い点と改善点について2～3人に分かれて検討を行い、全体共有をしたうえで、よりよくするためにはどうすればよいのか全体で協議をした。



授業についての意見交流の様子

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 今年度、5年生教科書の変更にあたり、様々な不安や悩みを抱える中、研究員同士でいろいろなアイデアや意見を出し合い、教材研究、単元構想を考えたことで、どの学校も見通しをもって授業を行うことができた。
- ② 各校での実践内容を共有することで、研究員同士で授業について意見を交えながら考えることができ、各研究員が抱える疑問や課題の解決に役立てることができた。

(2) 課題

- ① 来年度、6年生教科書の変更にあたり、今年度に引き続き教材研究を行っていく必要がある。また、市内で統一したCan-Do listの作成も進めていかなければならない。さらに、全国学力・学習状況調査の結果を受け、「英語好き」な児童を増やすための取り組みも考えていく必要がある。
- ② 近年受け身姿勢の児童が増加傾向にある。より積極的、主体的に児童が参加できる授業づくりをするためにも、各校での授業を共有し、検討していく必要がある。

学校図書館教育グループ研究会

グループ員：望月 成子（伊丹小学校） 太田 裕子（伊丹小学校）
荻野 舞子（瑞穂小学校） 上野 晴子（瑞穂小学校）
大石 愛弓（笹原小学校）

担当指導主事：戸田 征男

キーワード：学校図書館 読書力を高める 読書活動 関連図書

1 研究テーマ

「物語教材から子どもの読書の幅を広げる手立てを考える」

2 研究内容

(1) 紹介図書交流

近年、子どもたちに自由に本を手にとらせると、選ぶ本に偏りが見られることがある。子どもたちに様々な本を手にとってほしいという思いから、国語の物語教材を学習する中でどのような本をどのタイミングで紹介するかを中心に年間を通して考えた。

具体的な例として、2年「みきのたからもの」3年「ちいちゃんのかげおくり」「モチモチの木」4年「スワンレイクのほとりで」を挙げ、単元を学習する際に、授業の中でどのような場面で子どもたちに本を手にとらせるか、紹介したい図書の交流を行った。

(2) 読み聞かせたい話

2年「お手紙」の学習をする際に、がまくんとかえるくんシリーズ(全4巻)の中からどの話を選んで子どもたちに読み聞かせたいか交流を行った。実際に今年「お手紙」の学習で並行読書を行った実践での子どもの反応を参考に、どの話を、どのようなタイミングで読み聞かせするかを中心に話し合った。「お手紙」の物語に子どもたちが興味を持ったり、自分からシリーズの本や同じ作者の本を手にとりたいと思ったりするような紹介の順番について、実際にがまくんとかえるくんシリーズの話を読みながら研究を行った。

(3) 実践交流

2年「みきのたからもの」3年「三年峠」4年「スワンレイクのほとりで」6年「森へ」の実践交流を行った。

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 単元構想の中で、図書をどう活用したいかに合わせて紹介したい図書を検討することで、どのような本を子どもたちに手にとってほしいかをより具体的に考えることができた。
- ② 実際に紹介を行った後の子どもたちの反応や、読書傾向の変容を交流することで、手立てが有効であったか検討することができた。

(2) 課題

- ① 電子図書館やタブレット上で読書をする機会が増えている近年の子どもたちに必要な読書の力を今後も探っていく必要がある。

伊丹市養護教諭部研究会グループ研究会

A班グループ員：	宮崎 奈津子	(伊丹小学校)	足立 菜緒	(伊丹小学校)
	石川 美由紀	(稲野小学校)	川野上 涼子	(南小学校)
	緒方 友梨	(南小学校)	笠谷 はるか	(南小学校)
	フォス 智恵美	(神津小学校)	片山 美奈	(緑丘小学校)
	若木 ひかる	(桜台小学校)	富岡 美佐子	(天神川小学校)
	内藤 久理子	(笹原小学校)	武田 唯希	(笹原小学校)
B班グループ員：	安部 梓	(南中学校)	服部 寛子	(有岡小学校)
	小林 理加	(瑞穂小学校)	升井 嘉澄	(昆陽里小学校)
	岡本 尚美	(花里小学校)	澤田 成沙	(鈴原小学校)
	大森 明美	(摂陽小学校)	坂本 彩夏	(池尻小学校)
	篠崎 葉子	(萩野小学校)	荒地 美春	(伊丹特別支援学校)
	松田 弥生	(鴻池小学校)	白石 愛	(西中学校)
C班グループ員：	大村 由布子	(東中学校)	岡崎 睦世	(天王寺川中学校)
	村井 仁美	(北中学校)	田中 淑子	(松崎中学校)
	富田 つくし	(天王寺川中学校)	前田 絵里子	(笹原中学校)
	衣笠 和子	(荒牧中学校)		
	飯田 真由美	(伊丹高等学校)		

担当指導主事：松本 唯

キーワード：養護教諭の役割 情報交換 共通理解 保健管理 児童保健委員会 眼の健康 宿泊行事

1 主な内容 「養護教諭の役割と機能を考える」

(1) 全体会

兵庫県養護教諭研究会連盟、伊丹市学校保健会また伊丹市教育委員会や医師会への要望や意見の集約を行った。定期健康診断の反省点や改善点の取りまとめを行った。伊丹市養護教諭研究協議会について連絡・協議を行い、共通理解を図った。また、健康相談活動や健康教育、保健室経営などについて情報交換を行った。

(2) 班別研究

各班が研究テーマに沿って班別研究を実施した。

① A班（小学校）

ア 研究テーマ：「児童保健委員会を通じた健康課題への取組」

イ 内容

児童が健康課題を自身のこととして捉え、興味・関心を持てるための取組のひとつとして、児童保健委員会の活用を考えた。保健委員会の児童が自主的・実践的な活動で他者への貢献を実感し、全児童が健康課題を意識した生活ができることを目指し、児童保健委員会を主体とした啓発活動を行うとともに、その活動を活性化するための養護教諭の役割について研究を深めた。

ウ 成果

児童保健委員会を活用することにより、保健委員会の児童が自主的・実践的な活動で他者への貢献を実感することができた。また、児童から児童への発信は、健康課題をより身近に自身のこととして捉える手段として有効であることがわかった。さらに、委員会で評価と振り返りを行うことで、より効果的な教材作りに発展した。試行錯誤し、作り上げた教材が全児童の意識変化、行動変容につながった。このような体験を通じて、学校全体の啓発活動だけでなく、保健委員会の児童たちの自己肯定感の向上も感じられた。

これからも、児童たちが健康課題を自身のこととして捉え、興味・関心を持てる一助となる保健委員会活動に取り組んでいきたい。

② B班（小学校・特別支援学校）

ア 研究テーマ：「子どもたちの目の健康について」

イ 内容

令和8年度兵庫県養護教諭研究協議大会の誌面発表に向けて、令和3年度からの取組をまとめた。加えて、小学3年生を対象に目の健康について保健学習を行った学校では、事前事後の意識調査を実施した。

ウ 成果

令和3年度からの取組を振り返りまとめたことで、保健指導の大切さを改めて感じた。授業後の意識調査では、「時間を決めて使用する」「30分に1回休憩している」「画面から30cm離して使用している」の割合が増え、子どもたちが目の健康について意識しているかを振り返る良いきっかけとなった。これからも、子どもたちが自身の健康に関心を持ち、主体的に健康な生活を実践できるように、保健指導や啓発活動をさらに進めていきたい。

③ C班（中学校・高等学校）

ア 研究テーマ：「Safe Listening ～中高生のヘッドホンやイヤホンの使用方法から考える～」

イ 内容

(ア) 伊丹市立中学校・高等学校の生徒を対象にヘッドホンやイヤホンの使用状況に関するアンケート調査を実施し、中学生と高校生の結果を比較検討

(イ) 予防に向けた啓発活動

ウ 成果

(ア) ヘッドホン・イヤホン難聴を予防するための正しい使用方法を、生徒自身が理解することが重要であると考え、アンケート調査結果をふまえた内容の掲示物や、耳の健康全般に重点をおいた保健だよりの発行に取り組んだ。

(イ) ヘッドホン・イヤホン難聴の予防には、家庭・学校が正しい知識を持ち、子どもたちがヘッドホン・イヤホンを使い始める時期に、正しい使用方法を身につけさせることが重要であると考え、伊丹市学校保健研究協議大会にて発表を行い、啓発を行うことができた。

2 成果と課題

(1) 成果

- ① A班とB班は兵庫県養護教諭研究協議大会、C班は伊丹市学校保健研究協議大会での発表に向けて研究を進め、研究内容をまとめた。このことは、私たちの力量を高める良い機会となった。
- ② 養護教諭全員で健康診断実施状況について共有したことで、各学校の実態に合った対応ができた。定期健康診断の実施においては、児童生徒のプライバシーにも配慮した健康診断が受けられるように検討・改善に取り組んだ。
- ③ 養護教諭の実務に関する貴重な情報収集や検討の場とすることができた。

(2) 課題

- ① 来年度以降、数年後に迎える県大会当番地区としての準備に関わる時間が必要となってくる。限られた時間の中で班別研究を効果的に進めていくためには、養護教諭部研究会の持ち方を工夫していく必要がある。
- ② 学校で1人職、そして専門職である養護教諭にとって、班別研究は、各自の力量を高めるために重要な役割をもつ。本来、研究が目的のグループ研究会の時間が、職務に関する協議や打ち合わせをしなければならない現状は、改善していく必要がある。
- ③ 児童生徒の健康課題は多種多様にわたっている。その健康課題にしっかり目を向け、課題解決にむけて柔軟に対応していくことができるよう、これからも研修・研究に励み、養護教諭としての力量を高めていく必要がある。

中学校数学科グループ研究会

グループ員：古谷 俊樹（笹原中学校） 中辻 紘生（天王寺川中学校）
谷本 浩一（東中学校） 山下 拓馬（西中学校）
高木 匡（南中学校） 中垣 克哉（北中学校）
上野 翼（松崎中学校） 落合 由貴（荒牧中学校）

担当指導主事：江尻 純子

キーワード：全国学力・学習状況調査 授業力向上 授業改善 個別最適な学び 協働的な学び

1 研究テーマ

「個別最適な学びと協働的な学びの両立を目指した授業づくり」
～数学が好きになるための授業展開の工夫～

2 研究内容

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現につながる授業改善の推進

- ① 全国学力・学習状況調査結果分析
- ② 習得・活用・探究を意識したカリキュラム・マネジメント
- ③ 数学が好きになるための授業展開の工夫

(2) 数学科教員の資質向上

- ① 公開授業や研究授業の積極的な実施と参観
- ② 夏季研修会と先進校視察
- ③ マンダラートを用いた授業研究

(3) ICT の活用

- ① 授業支援ソフトを積極的に活用した授業展開
- ② テストなどの結果分析と授業改善
- ③ 学習環境づくりと家庭学習の充実



研究授業でのグループワークの様子

(4) 研究会の実施内容

- | | | |
|-----|--------|--|
| 第1回 | 5月31日 | 研究テーマの確認・年間指導計画の作成
新入生テスト・学習理解度調査・公立高校推薦入試の役割分担
夏季研修会の計画
研究授業の指導案検討 |
| 第2回 | 6月17日 | 夏季研修会の計画・準備
授業改善について検討 |
| 第3回 | 9月26日 | 夏季研修会のまとめ
全国学力・学習状況調査の結果分析
先進校視察の計画 |
| 第4回 | 11月29日 | 先進校視察のふりかえり
授業改善の検討 |
| 第5回 | 1月14日 | 研究授業の指導案検討
新入生テスト・学習理解度調査の実施日程などの確認 |
| 第6回 | 2月25日 | 今年度のふりかえり
次年度の研究について
学習理解度調査の結果分析について検討 |

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 2度開催した伊丹市教育研究会（研究授業を含む）において、伊丹市が継続的に取り組んできたことと、今年度からの取り組み内容についての評価や課題を得られたことで、研究の意義を再確認することができた。
- ② 「全国学力・学習状況調査」の問題内容や伊丹市及び各校の結果分析を活用して、全国と伊丹市の比較、伊丹市と各校の比較を行うことで生徒の苦手分野や今後の学習指導の方向性について確認し、授業計画を見直すことができた。
- ③ 研究会や研究授業を通して、授業の事後検討会の実施に重点を置いて取り組んだ。その中には、主体的に教員間での意見交換が行われ、授業に対して考えを深めることができた。
- ④ 「数学が好きになる」ためにはどんな授業をしていくべきか、この一点に絞って研究を進めることで、目指す方向性が明確になり、研究をより進めることができた。
- ⑤ 「全国学力・学習状況調査」の生徒質問の分析結果から、「数学の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対しては、伊丹市の肯定意見の回答率は76.4%であり、全国の平均73.3%を少し上回っている。昨年度は下回っていたことから、研究の成果が見られた。
- ⑥ 先進校視察を行い、市内中学校数学科で共有することで、今後の研究の目指す方向性を見直す良い機会となった。

(2) 課題

- ① 学校のICT環境整備は進んでいるものの、ソフトやアプリ等の操作については不慣れな教員もまだまだいる。そのため、今後も積極的にICTを活用した授業実践を行うとともに学習効果等を検証していく必要がある。
- ② 「全国学力・学習状況調査」の分析結果から、今年度も記述問題において正答率が全般的に低いことが分かった。そのため、生徒自らの考えを文章で表し、言葉や数値など正しく記述する練習を継続して取り組んでいく必要がある。
- ③ 「全国学力・学習状況調査」の生徒質問の分析結果から、「数学の勉強は好きですか」という質問に対して、伊丹市の肯定意見の回答率は57.0%であり、全国の平均57.2%をやや下回っている。このことを真摯に受け止めて、「わかる授業」、「おもしろい授業」をつくるために、この研究をより発展させていく必要がある。
- ④ 生徒は数学に対する苦手意識を持ちやすい傾向があるため、解消できるよう、新入生テストの結果を分析し、新入生の学力保障に繋げていく。また、経年比較を行っていき、生徒の苦手な単元の傾向について、更に研究を推進する必要がある。
- ⑤ 教員がそれぞれの授業を見合う機会が少なくなっているため、授業力の低下が危ぶまれる。互いの授業を見せ合う場の設定や指導案を共有するなどして、互いの授業力を高めあう場機会を多く設定する必要がある。

音楽グループ研究会

グループ員：相宗 絢菜（天神川小学校） 糸井 恵美（昆陽里小学校）
東馬場 麻衣（南小学校） 武市 愛（荻野小学校）
花谷 佳子（桜台小学校） 植村 颯季（鴻池小学校）
小谷 菜美（瑞穂小学校） 足立 真子（有岡小学校）
高木 美穂（花里小学校）

担当指導主事：小野 晋弘

キーワード：常時活動 歌唱指導 器楽指導 行事 ICT

1 研究テーマ

「新しい音楽の授業の工夫～ICTを活用した授業の工夫」

2 研究内容

(1) 常時活動や日頃の授業実践について

- ① 譜読力をつけるための常時活動について実践を交流
- ② 鍵盤ハーモニカの指導の導入について
- ③ 二部合唱の指導について
- ④ 打楽器の奏法や管理について
- ⑤ 音楽会や卒業式の運営方法・曲目・指導方法の意見交流



【打楽器の奏法について研究】

(2) ICT の活用

- ① 動画配信サイトや学校放送番組等活用した授業実践の交流
- ② 授業支援システムを使用した授業実践の共有



【二部合唱の指導について交流】

(3) 教科書改訂に伴い新しく教科書に載った題材・単元について

- ① 第3学年教材「クロックミュージック」について指導方法・指導計画の交流
- ② 教科書に記載されているQRコードを使用した授業づくりについて意見交流

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 各校の授業で困っていること、音楽会含む行事、授業の悩みを共有し、アイデアや実践を出し合い持ち帰ることで、より児童に寄り添った授業づくりができた

(2) 課題

- ① 教科書が改訂され、新教材に関してどのように授業を進めるのが良いか今後も研究を続けていく必要がある。
- ② ICTの活用方法について、子どもの実態に合わせて丁寧に精査していき、より有効に活用できるよう授業づくりをしていく必要がある。

学級経営グループ研究会

グループ員：志水 誠司（伊丹小学校）	西尾 悠希（伊丹小学校）
望月 成子（伊丹小学校）	渡辺 陽海（稲野小学校）
伊野 功輝（南小学校）	中尾 桜子（南小学校）
正谷 竜也（神津小学校）	徳本 大典（天神川小学校）
宮口 恭子（桜台小学校）	中内 美来（桜台小学校）
村尾 友基（桜台小学校）	萩野 舞子（瑞穂小学校）
辻 恭太郎（瑞穂小学校）	横田 彩花（花里小学校）
田中 真夕（有岡小学校）	小林 莉子（有岡小学校）
横田 厚祐（昆陽里小学校）	白井 瑞恵（鈴原小学校）
的場 貴史（鴻池小学校）	後藤 義揮（鴻池小学校）
二宮 昂次郎（鴻池小学校）	辻井 茂克（鴻池小学校）
山田 芽来（鴻池小学校）	桐山 仁恵（鴻池小学校）
担当指導主事：戸田 征男	

キーワード：学級経営 心理的安全性 学級力アンケート エピソード分析

1 研究テーマ

「子どもも先生も明るく元気になれる関わり方・学級経営の方法を考える」

2 研究内容

(1) 実践発表

クラス担任・特別支援学級担任など様々な視点から子どもとの関わりや学級経営についての実践発表を行った。

① 「授業で子どもを育てる」という視点

毎日の授業には子どもたちの関係性をつくり、学級に心理的安全性を生み出す大きな力がある。安心して意見が言える授業づくりなどについて実践発表があった。

② 学級力アンケートの活用

最近、学級力アンケートを実施する学校が増えている。「学級力アンケートとは何か」という話から、学級経営に活かすためにはどのように扱えばよいのかということについて提案があった。

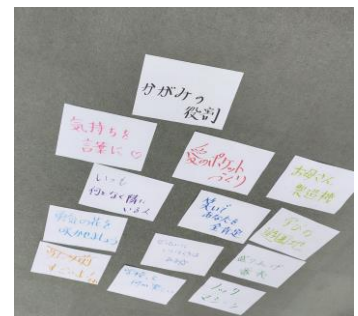
(2) ワークショップ

① 子どもとの関わり方の分析

学校では授業時間・休み時間を問わず様々な問題が起こる。即時の対応が求められる一方、その対応をふり返った際に「うまくいかなかった」と反省することも多い。対応時、自分はどうのような感情で子どもと向き合っていたのか、他にどのような関わり方ができたのか、今後どのように対応していくとより良い関係が築けるか。以上のことをエピソード分析という手法を用いて参加者全員で考えていった。

② 「多様な価値観」への気づきを促すワーク

「学級経営を考える中で大切にしていることは？」、「教師という仕事を一言で表すと？」(写真)などをテーマに意見の交流を行った。その中で、同じ教員であってもその価値観は様々ではあるが、このような研修会を通して多様な価値観・視点に触れて尊重することが、ひいては学級を経営する上で子ども一人ひとりを大切にすることにもつながるのではないかと考えられた。



「多様な価値観」への気づきを促すワーク

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 「多様な価値観を認めること」「安心して意見が言える授業づくりを心がけること」を通じて心理的安全性を確保することの必要性をメンバーで共通理解することができた。子どもが自分から意欲的になれるような声かけを行うことも安定した学級経営の土台になることも確認できた。
- ② ワークショップなどで交流を深めることを通して、教師一人ひとりの個性の違いを強く感じることができたが、それは「一人ひとりが違う強みをもっている」ということを確認することにもつながった。同じ学年の子どもを複数年見ているという経験、特別支援学級やその他の学級を担当したという経験、自身が育児を通して得た経験などは大きな強みとなる。上述した、「心理的安全性」「意欲的になれるような声かけ」を大切にすることを基本に、自分の強みを掛け合わせることで、本研究会のテーマである「子どもも先生も元気になれる学級経営」を目指していきたい。

(2) 課題

- ① 新しく作ったグループ研究であったため準備に時間を要した。そのことが原因で実質の活動が2学期からとなった。せっかくの交流の機会が少なかったというのが本年度の大きな反省である。次年度は早い時期にスタートし、メンバー相互の交流から多くの気づきが得られるようにしたい。

中学校美術科授業研究グループ研究会

グループ員：斉藤 妙子（松崎中学校）	小杉 和生（東中学校）
西崎 恵美子（西中学校）	中山 四葉（南中学校）
野田 義子（南中学校）	玉屋 光海（南中学校）
加藤 方彦（北中学校）	山本 優大（北中学校）
川崎 佳代（天王寺川中学校）	成合 貴志（天王寺川中学校）
江上 里香（荒牧中学校）	井藤 沙織（笹原学校）

担当指導主事：江尻 純子

キーワード：ICT 活用 鑑賞教育 授業の共同開発 授業支援システム 学び合い

1 研究テーマ

「教材研究と指導法等について」

2 研究内容

(1) 指導法の共有

各校の年間指導計画を元に、どのような課題を行っているのかということ市内美術科教員全員が発表し、それぞれの教材の指導法、評価の仕方などを共有した。特に鑑賞の授業の考え方、授業支援システムの活用方法の2点を重点的に取り上げて、研究を深めた。

- ① 鑑賞の授業の考え方について、さまざまな文献を参照し、対話的鑑賞とは何か、発達段階をふまえた鑑賞のあり方、鑑賞の評価の捉え方などを共有した。
- ② 授業支援システムを使ったふり返しや自己評価の方法、話し合い活動の時に有効な機能の紹介など、生徒にとって効果的で、より深い学びに向かうための授業支援システムの活用方法について共有した。

(2) 教材研究(指導案検討)

「見返り美人図」の模写作品を鑑賞し、文化継承について考える授業の指導案を作成するにあたって、指導法について検討した。

- ① 模写作品を近くでじっくり鑑賞させるために、作品の配置の仕方、タブレットのカメラ機能を活用する方法、鑑賞活動の導入などを協議した。
- ② 話し合い活動の際に、生徒の考えがスムーズに共有できるような授業支援システムの使い方について協議した。



各校の情報交換の様子



「見返り美人図」鑑賞授業検討の様子

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 市内美術科教員がそれぞれ行っている教材研究を全体で共有することで、新たな教材のアイデアを得ることができ、よりよい指導法について考えることができた。
- ② 鑑賞や ICT 活用など、研究する分野を絞り、美術科教員それぞれが今まで実践してきたことをふまえて、さまざまな視点で指導法を検討することができた。

(2) 課題

- ① 各校1人の美術科の現状があり、個人の教材研究だけでは限界がある。今後も各校の実践を共有し、よりよい授業のあり方を協議し、高めていく必要がある。
- ② 今求められている美術科教育のあり方を再確認し、市内美術科教員全体が共通の課題意識を持つことで、研究会の方向性を定めていくべきだと考える。

中学校英語科グループ研究会

グループ員：横山 弘輝	(天王寺川中学校)	宮川 ちあき	(北中学校)
奥村 優一	(笹原中学校)	寺澤 達郎	(天王寺川中学校)
古田 晋	(笹原中学校)	有田 直人	(天王寺川中学校)
岩村 春奈	(東中学校)	喜久田 尚也	(松崎中学校)
大崎 梨生	(東中学校)	山口 華佳	(荒牧中学校)
滝井 莉南	(東中学校)	横地 綾	(笹原中学校)
井本 直樹	(西中学校)	西本 大和	(笹原中学校)
松林 潮	(南中学校)	井上 裕理江	(天王寺川中学校)
室伏 ギリシュ	(南中学校)		

担当指導主事：近田 拓郎

キーワード：帯活動、目的・場面・状況の設定、バックワードデザイン、新教科書

1 研究テーマ

「新学習指導要領の内容を踏まえた効果的な帯活動等について」

2 研究内容

(1) 帯活動についての共通理解

英語科教員研修会における京都外国語大学杉本義美教授の講演資料をもとに、各校での帯活動の取組や単元計画について共有し、単元計画作成の土台とした。

＜帯活動の基本的な考え方＞

- ・毎時間、10～15 分程度、以下の取組を通して、段階的に自己表現活動を行う。
- ・既習表現と新出表現を組み合わせる繰り返し学習
- ・各単元に関連した、授業の流れとつながりのある学習
- ・Discourse を意識した 4 技能の活動

(2) バックワードデザインでの目的・場面・状況を設定した単元計画作成

- ① 1 グループでは、1 年生 Lesson 5 の単元計画を検討・作成した。1 年生の発達段階に応じた目的・場面・状況の設定をし、その具体的な教材等について協議を重ねた。
- ② 2 グループでは、2 年生 Lesson 5 の単元計画を検討・作成した。姉妹都市佛山市との国際交流の一環として生徒が来校することを受け、学校でできる体験活動を考えさせる単元計画を作成した。パフォーマンステストやループリック、帯活動の内容等について検討した。授業で活用できる教材を分担して作成し、共有した。また、単元終了後に各校の成果物を持ち寄り、情報交換を行った。
- ③ 3 グループでは、3 年生 Lesson 5 の単元計画を検討・作成した。アメリカの歴史について紹介する内容を生徒のアウトプット活動へつなげるべく、パフォーマンステストやループリック、帯活動の内容等について検討した。

(3) 新教科書の単元計画作成

- ① 1 グループでは、新教科書 2 年生の内容について検討した。小学校から中学 1 年生までの間の既習事項を継続的に活用させ、表現の幅を広げていくことのできる単元計画について意見交流した。
- ② 2 グループでは、新教科書 3 年生 Lesson 2 の単元計画を検討・作成した。新教科書からどのように授業を進めていくことができるかを話し合った上で、単元のめあて、パフォーマンステスト、パフォーマンステストに関するループリック、帯活動の内容について検討した。
- ③ 3 グループでは、新教科書 1 年生 Lesson 1 の単元計画を検討・作成した。新教科書を使用

し、小学校英語との橋渡しや音声指導、Goal Activity、語彙の取り扱い、ライティングの指導等について検討した。

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 同じ学年を担当しているグループ員で定期的集まり、各校の実態に応じた単元計画を提案・共有したことで、単元計画を改良し、授業スキルを向上させることができた。
- ② 令和7年度から使用される新教科書について、その内容・構成について確認し、具体的な単元計画や評価計画について検討することで、新教科書においてもこれまでの取組を活かし、生徒の英語力を向上させるための指導方法について検討することができた。

(2) 課題

- ① グループ別（担当学年別）での検討を実施したため、実際の生徒の実態を想定しながら単元計画や教材の検討ができた反面、他学年の視点を取り入れた系統的な単元計画の検討が難しかった。来年度以降、各グループで持ち寄った教材を他グループにも提供するなどし、グループ間での共有を強化していきたい。
- ② 変化が著しい時代に合わせ、ICT 機器やCBT システムの活用、アナログ教材とデジタル教材の効果的な使用方法など、最新の指導方法について取り扱う機会を設けていきたい。

中学校国語科授業検討グループ研究会

グループ員：	田中 友裕	(天王寺川中学校)	伊藤 秀子	(北中学校)
	南口 あゆみ	(南中学校)	有木 里奈	(天王寺川中学校)
	河合 さよ子	(西中学校)	高美 有希	(松崎中学校)
	廣 一登	(南中学校)	永井 玲名	(松崎中学校)
	荒木 晴香	(南中学校)	笠井 優	(荒牧中学校)
	柳原 百	(北中学校)	新立 隼也	(笹原中学校)
			担当指導主事：窪田 えみか	

キーワード：主体的・対話的で深い学び 学習評価 語彙力の定着 授業力の向上

1 研究テーマ

「主体的・対話的で深い学びを意識した授業力の向上」

2 研究内容

(1) 国語科における授業づくりの在り方についての研究

- ① 書写授業研究において、実践動画をもとに書写の授業力向上についての意見交流を行った。小・中学校で行われている授業実践動画について意見を交流することで、書写授業における課題や指導方法について現状で効果的な授業の在り方を探った。
- ② 授業づくり研修の一環として、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業実践交流を行った。各校から自身の授業実践を持ち寄り、意見を交流することで効果的な ICT の活用方法や生徒自らが問いを立てる発問の工夫について考察した。

(2) 「国語好きを増やす授業」の実現に向けた授業力の向上について

- ① 活用・表現力の育成を目的とした国語科授業について、伊丹市立荻野小学校の研究会に参加した。生活科・総合的な学習の時間を中核に据えた国語科で培った知識・技能の主体的な活用をうながす場の設定について学んだ。
- ② 主体的・対話的で深い読みの実現を目的とした国語科授業について、伊丹市立荒牧中学校笠井教諭の授業実践を見学した。教材「少年の日の思い出」(ヘルマン・ヘッセ)をもとに教材の捉え方や発問の作り方について意見を交流した。また、令和6年度全国学力・学習状況調査の解答分析結果から、国語科を通して中学生に身につけさせたい力について協議した。

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 書写授業の工夫や国語科指導の在り方について議論することで、児童生徒が主体的に学ぶための環境作りや、学習指導要領の正しい理解及びそれに基づいた授業設計の重要性について考えることができた。
- ② 授業実践の見学や、授業内容についての意見交流を行うことで、異なる経験や視点をふまえた授業改善の方向を見いだすことができた。

(2) 課題

- ① 授業実践をもとに意見交流を行うことは有意義であったが、参加者自身が授業を実施しベテラン教員から具体的な意見を受ける機会が不足していた。
- ② 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構築のために、学習指導要領の正しい理解、それに基づいた授業設計のために教材研究を深める必要を感じた。